

旭地域義務教育学校 校名候補選考結果

美咲町旭地域義務教育学校開校準備委員会

順位	校名候補 (選考意見)	
1	校名候補	美咲町立 旭小中学校 (あさひ小中学校)
	応募者の校名に込めた思い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今のままでよいと思う。 ○ 今までどおりの名前の方が親しみやすい。 ○ 旭という今までの学校名を引き継いでいきたい。 ○ 旭の名前を残したい。 ○ 旭地域だから旭が付いてこそいい。 ○ これまでの学校の名前に近く覚えやすい。 ○ シンプル・分かりやすい・言いやすい。 ○ 旭小学校と旭中学校が一緒になるから。 ○ 「学園」や「学校」は短くてよいが、「小中学校」の方がしっくりくる。 ○ 小学校と中学校を合わせたら面白いと思った。
	選考意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ シンプルで分かりやすい。 ○ 奇抜なものより単純なほうがよい。 ○ 中学生からの応募が多く、中学生の思いが伝わってくる。 ○ 「学園」よりも「小中学校」という名称の方が義務教育学校を連想しやすい。
2	校名候補	美咲町立 旭学園 (あさひ学園)
	応募者の校名に込めた思い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 旭という名前を残したい。 ○ 旭という文字がなくなってしまうと寂しい。 ○ 旭町が故郷であり、その名前を入れたい。 ○ 多くの人の中に生きている旭の文字をこれからも使いたい。 ○ 旭地域で生まれ育ったことを意識して過ごしてほしい。 ○ 旭を強調し、響きを大切にしたい。 ○ そのままでもよい名前だから。 ○ 言いやすい、書きやすい、覚えやすい。 ○ シンプルで親しみがある。 ○ 一番しっくりくる。 ○ 「学園」はカッコいいから。 ○ 旭の漢字の意味として、日が昇るや明らかななどの明るいイメージがあり未来を見るよい名前。 ○ 「義務教育学校」よりも「学園」の方が馴染みやすそう。 ○ 学園は小中が一緒になった新しい学校というイメージ。
	選考意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「旭学園 (仮称)」という名称が浸透しているため、保護者や地域住民からの支持率が高い。 ○ 小学生・中学生からの応募が多く、児童生徒の意見を取り入れたい。 ○ 義務教育学校になるのだから、「小中学校」というより「学園」の方がよい。 ○ 応募件数が圧倒的に多く、シンプルでよい。 ○ 「学園」は、私立のイメージがある。

3	校名候補	美咲町立 旭桜学園 (旭さくら学園・あさひ桜学園)
	応募者の校名に込めた想い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 旭といえば桜だから。 ○ 桜で有名な三休公園のそばにあり、旭のイメージとも合致する。 ○ 今では桜の名所として県内はもちろん県外にも認知されている。 ○ 桜の下ですくすくとたくましく育てほしい。 ○ 卒業しても旭地域のことを忘れずに桜の下に戻ってきてほしい。 ○ 旭といえば桜と湖、ダム沿いや三休公園の桜は子どもたちが大きくなるのを見守り、やがて町を離れても地域を思い出すシンボルになる。 ○ 旭小学校と旭中学校の旭と町木であり旭地域を代表する桜の組み合わせにより、教育が旭地域で咲き誇るよう願いを込めた。 ○ 旭には三休公園があって桜がきれい、学校の入学式といえば桜だから。 ○ 桜のように美しい人になってもらいたい、元気な学校であってほしい。 ○ 桜を見るときれいだし、元気が出る。 ○ 旭の名前と素晴らしい桜を校名に入れたかった。 ○ 旭という地域名は子どもたちにも受け継いでほしい。 ○ 大きくなっても胸を張って学校名をいえるような名前。 ○ 「学園」はカッコいい名前。
	選考意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 旭地域は桜が有名で、きれいな桜の色が連想され、ビジュアルに訴えるものがある。 ○ 漢字で旭桜と書くと「きょくおう」とも読める。県内には岡山市立旭操中学校・旭東中学校等がある。 ○ ソメイヨシノは寿命が50年程度であり、桜にこだわる必要はない。
4	校名候補	美咲町立 旭未来学園 (旭みらい学園・あさひ未来学園)
	応募者の校名に込めた想い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 旭地域の未来のために。 ○ 学校を核にみんながまとまり、未来を担う子どもたちが元気に育っていくように。 ○ この学園を卒業した生徒が、未来に向かって歩いていくという想い。 ○ ずっと未来へ続く学校になるように願いを込めた。 ○ この学園が未来に受け継がれていくという想い。
	選考意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「未来」という名称が義務教育学校という新しい学校をイメージさせる。

総 括 意 見

令和5年4月に開校を予定している旭地域義務教育学校の校名について、応募用紙及び電子申請システムにより令和3年7月12日から8月11日の1カ月間募集を行い、合計155件の応募があった。

様々なアイデアを凝らした校名が応募され、それぞれの応募者の想いが伝わってきた。校種に係る校名表記については、「美咲町立〇〇学園」が圧倒的に多く、続いて「美咲町立〇〇小中学校」で、「美咲町立義務教育学校 〇〇〇〇」という表記は名称が長くなるためか予想に反して多くはなかった。校名としては、「旭学園」「あさひ学園」が最も多く、「旭小中学校」が続いた。また、旭地域の「旭」ともう一つの言葉を組み合わせた「旭桜学園」「旭さくら学園」や「旭未来学園」「旭みらい学園」なども見られた。

ほとんどの校名に合併前旧町の名称である「旭」あるいは「あさひ」の文字が使われており、この点について議論の必要はなく、分かりやすく、地域に親しまれる義務教育学校に相応しいという視点で、応募者の校名に込めた想い等を参考にしながら議論を行った。

その結果、旭地域義務教育学校開校準備委員会としては、上記のとおり4校名候補を選考した。